

令和5年度第1回 大府市自立支援協議会全体会 議事録

日時	令和5年4月28日（金） 午前10時00分～11時40分
場所	大府市役所全員協議室
出席委員	森本光代、三鬼ルミ子、木全和巳、平野みずえ、鈴木悦彦、塚塚本鋭裕、朝熊清花、杉原直樹、清水晶、辻孝志、大平長治、薄井秀人、小川緑、山崎千佳、給田章生、東千恵子、水上和江 事務局：猪飼健祐、小島紳也、夏目誠二、山崎誠、中村浩、川出陽一、西川秀章、都築脩人、小清水崇、杉浦英憲、久野幸信、竹内美喜
欠席者	櫻井政仁、平林政明、中本和則、西原民枝、大塚良孝、飯田真由美、秋津佐智恵
傍聴者	1名

敬称略

1 あいさつ

大府市長：障がい者のコミュニケーション促進条例と成年後見制度の利用促進条例の制定に伴う施策の推進と障がい者アートに関する更なる取組を進めていきたい。地域共生社会に向け、自立支援協議会の役割に大きな期待とともに、協力の依頼。

2 議題

(1) 大府市自立支援協議会について

資料に基づき事務局から説明、質疑

→質疑は特になし

(2) 大府市障がい福祉計画（第6期計画）、障がい児福祉計画（第2期計画）の状況について

資料に基づき事務局から説明、質疑

→質疑は特になし

(3) 相談支援事業について

資料に基づき事務局から説明、質疑

【委員】指定一般相談は基幹部門か計画部門のどちらで行っているのか。また、資料P

12に地域定着支援の実績1件とあるが、障がい者相談支援センターでの指定一般相談の実績がないのが、どうなっているのか。

→【事務局】障がい者相談支援センターでは計画部門が行う。また、センターにおける令和3年度の地域移行関係実績はない。地域定着支援1件の実績は、計画相談支援事業所みらいの実績。

【委員】自立支援協議会で、市内の相談支援体制について協議をして、障がい者相談支援センターに職員派遣などを行っている。障がい者相談支援センターの状況だけではなく、障がい者ではみらい、障がい児ははつねやおひさま、みのりも計画相談を行っているので、今後は市全体の相談の状況の報告をしてほしい。

(4) 障がい者の差別解消・虐待防止、福祉総合相談室の相談状況について（資料P15～21）
資料に基づき事務局から説明、質疑

【委員】事業所には市外の方も利用しており、虐待の相談を受けることがある。同じようなことが、市内在住者でもあることを考えると、相談支援センターからの通報はあるが、他の計画相談支援事業所からの通報が少ないような気がする。

資料P20のひきこもり等の相談について、40歳以上で一括りになっているが、福祉総合相談室での相談なので、もう少し区切りを細かくした方がいいのではないかと。

→【事務局】虐待防止センターには、周知を図るようにしていく。

【委員】資料P20のエスコートの利用実績をもう少し詳しく教えてほしい。

→【事務局】人数は延べで、毎月行っている家族のつどいも加わっている。

→【委員】詳細は退学した若者が最も多い。居場所は大きく2種類あり、図書館などの一室を利用して多くの若者が集まる場と、支援を必要とする若者に限定する居場所。市として方向性を定めていけるといいと思う。

【委員】施設の利用者には、使用者虐待によりひきこもっていて、障害福祉サービスを利用するに至った人もいる。ひきこもりは支援の周知が必要だと思う。

【委員】実際の小中学校では多くの不登校の人数と比較すると、実際の相談件数は少なすぎるのではないかと。相談窓口の周知が行き届いていないのではないかと。

自立支援協議会の自立の支援対象はどこだろうかと思うことがある。ひきこもりや不登校の子どもたちも対象になるのかどうか。どうフォローしていくか難しいなと思う。

(5) 令和4年度の新規事業等について（資料P22～23）

資料に基づき事務局から説明、質疑

→質疑は特になし

(6) 成年後見制度利用促進事業について（資料P24～25）

資料に基づき事務局から説明、質疑

【委員】成人が18歳になったが、成年後見制度はどうなるのか。

→【事務局】4月から18歳から成年後見制度の利用となる。

【委員】障がい者だと日常のことも成年後見人に相談することがあるが、本来はどこに相談すべきなのか。

→【事務局】障がい者相談支援センターなどが適当ではないかと思う。

【委員】法人後見の目途はどうなっているのか。

→【事務局】法人後見について社会福祉協議会へ委託して一緒にやっていく。社会福祉協議会以外の法人にも法人後見ができるようにしていけたらと考えている。

【委員】身上監護が大切になると思うので、成年後見制度がさらに充実していくといいと思う。

→【事務局】成年後見制度だけで支援していく訳ではなく、それぞれの支援機関等がチームとなって支えていくことが大原則。それらを調整していくのが、中核機関となる。

(7) 各機関の情報交換

【委員】 ひいらぎ特別支援学校が防災チャレンジプランに当選した。地域や広域での連携による防災に関する取組への事業なので、何かアイデアがあれば教えて欲しい。

3 その他

特になし